

日本 キャリア・カウンセリング学会の 歩き方

プロフェッショナルな学びの島へようこそ!



一般社団法人 日本キャリア・カウンセリング学会 研究委員会〔編〕

(旧 日本産業カウンセリング学会)



2023年

ダウンロード版

日本 キャリア・カウンセリング学会 の 歩き方

プロフェッショナルな学びの島へようこそ!

一般社団法人 日本キャリア・カウンセリング学会 研究委員会 [編]
(旧 日本産業カウンセリング学会)

はじめに

「学会」という団体に、あなたはどんなイメージを抱くでしょうか。
大学教授や研究者が集う場所……、
研究成果の発表、専門的な議論・意見交換をするところ……、
もちろん、それもあります。

でも、日本キャリア・カウンセリング学会¹は、
対人支援の実践者も多く所属しています。



実践者も研究者とともに、
働く人の成長と組織の発展に
力を注いでいます。

本書では、本学会を1つの「島」にたとえ、
この島にたどり着いた旅人の4つのストーリーを紹介します。

学会をどのように活用し活動していくのか、
素晴らしい学会ワールドをご案内します。

¹ 本学会は、2021年4月から、一般社団法人日本産業カウンセリング学会から一般社団法人日本キャリア・カウンセリング学会へと改称いたしました。

発刊に寄せて

1980年代、私が大学生の夏休みに40日間かけて欧州数カ国をひとりで旅したことがあります。当時はまだ流行っていた寝袋担いだバックパッカーの貧乏旅です。インターネットもなく、初めての海外で不安な私が常に手にしていたのは『地球の歩き方 ヨーロッパ』一冊だけ。もっと上手もいました。ベニスで出会ったアラブの学生はヨーロッパ全土の大判の地図1枚で悠々と旅していました。外国文学を専攻し、あこがれのその国を訪ね、出会った街、人、文化、世界観は今の私の土台にあります。あれからこのシリーズは何十冊も見知らぬ街に出かける度にお世話になっています。最近、買ったのは『カンボジアの歩き方』。

さて、当学会研究委員会（高橋浩委員長）のメンバーが学会としては類書をみない画期的な発想の企画を立ててくれて、ついに発刊することになりました。

学会というところは少し敷居が高いかもしれません。企業から入った私もそうでした。学会に入会する、大会で発表する、論文が雑誌にのる、委員会で活動する、その度にドキドキ・ワクワクしてきました。会社とはだいぶ勝手が違う、基本はボランティアの組織です。

この学会のありたい姿は、研究者と実践者が集まって自由にフラットに交流して、学習して、成長していくことを目指したコミュニティなのです。カウンセリングを学び実践していくのですから、その交流が深まっていくのは当然かもしれません。人は人との関わりからしか学べない大事なことがあります。人生100年とかマルチステージの時代は、家庭と職場だけではなく、いくつもの異質で多様な価値観と出会えるコミュニティを持つことが人生を豊かにします。

学会という新しい「学びの島」、フィールドを仲間と楽しく歩き回れるような素敵なガイドブックができました！この本を携えて自分の世界を広げる冒険の旅に出かけませんか。



2023年1月 吉日

一般社団法人日本キャリア・カウンセリング学会 会長 廣川 進

目次

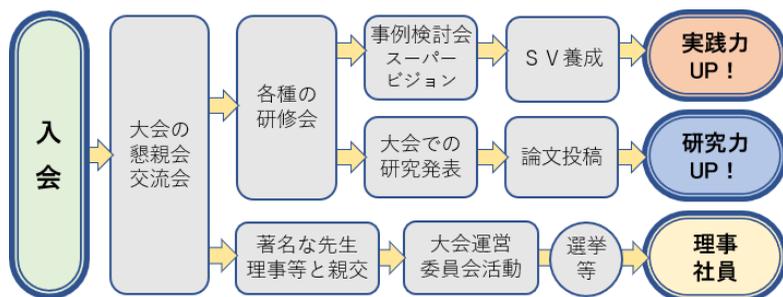
はじめに	2
発刊によせて	3
本書の使い方	6
第1章 学会マップ	7
日本キャリア・カウンセリング学会という「島」	8
この島（学会）はどんなところ？	10
島（学会）の住人はどんな人たち？	11
第2章 4人の旅人のストーリー	15
春田さん	16
秋元さん	20
冬川さん	24
夏木さん	28
第3章 学会のパワースポット	32
“縁”を結ぶエリア	33
大会での懇親会（リアル開催）	33
大会での交流会（オンライン形式）	34
会報・メールニュース	35
“技”を磨くエリア	36
各種セミナー	36
大会における各種研修会	37
研究セミナー	39

研究相談サロン&サロンPlus	40
スーパーバイザー養成講座	41
事例検討会	42
“知”を集めるエリア	43
大会での研究発表・実践報告	43
各種表彰	44
大会での公募シンポジウム	46
大会論文集	47
学会誌『キャリア・カウンセリング研究』	48
オンライン論集	
『日本キャリア・カウンセリング学会 TODAY』	50
学会刊行物	51
“会”を動かすエリア	53
大会実行委員会	53
各種の委員会活動	55
理事会	57
おわりに	58
入会案内	60
著者と協力をいただいた理事・監事の方々	61

本書の使い方

～ これから入会する人、入会したけど戸惑っている人へ ～

学会の歩き方は自由です。自由だからこそ、どう歩むべきか分からないとも言えます。入会動機にもよりますが、何はともあれ、まずは大会の懇親会や交流会に参加することをお勧めします。あなたの実践あるいは研究と一緒に進める仲間を得たり、助言・指導する師と出会うことができるからです。また将来、学会運営に携わるきっかけにもなります。おすすめコースを下図に示します。どんな道を歩みたいでしょうか。もちろん、縦横無尽に歩いていただいても構いませんよ。



本学会を歩き回って、専門家としての知識と技術、ネットワークを獲得する旅に出てください。まずは第1章で学会の「全体像」を見てみましょう。第2章では、4人の会員が「歩んだ道」を紹介します。イメージを膨らませてみてください。なお、**黄色マーカー**の部分は学会の活動の場（＝パワースポット）で、第3章で詳しくご説明します。第2章と第3章のうちどちらから読んでも構いませんし、気になったところを歩き来しながら、学会という島での活動を想像して楽しんでください。

第1章

学会マップ

本学会を島にたとえて、概要を紹介します。



日本キャリア・カウンセリング学会という「島」

人口は約 1,000 人（2022 年 9 月時点）。

この島には、様々な働く人・働こうとする人の多様な問題に対して、
カウンセリングを通じた支援を志す人々が住んでいます。

この島は4つのエリアに分かれています。

“縁”を結ぶエリア

まずは、学会活動を知ったり、交流会や大会の懇親会で人的ネットワークを広げたりしてみましょ。思わぬ出会いや偶然があるかもしれません。

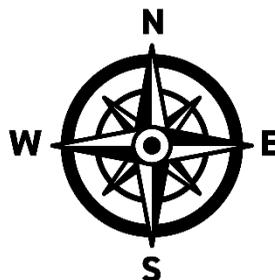
“技”を磨くエリア

カウンセリングの実力を上げていくなら、このエリア。学術的な根拠に基づいた研修、事例検討、スーパーバイザー養成講座があなたを待っています。



“知”を集めるエリア

実践活動の報告から学術研究の成果まで、
会員の「知」が結集されるエリアです。
最新情報に触れて、刺激を受けて
あなたの実践活動にも活用しましょう。
そしていつかは、あなたが発表を！



“会”を動かすエリア

学会は、社員から選出された
理事による理事会によって
運営されます。

その他に、各種の委員会
活動や大会運営で活動
することができます。

「我こそは」
という方はぜひ声を
あげてください。

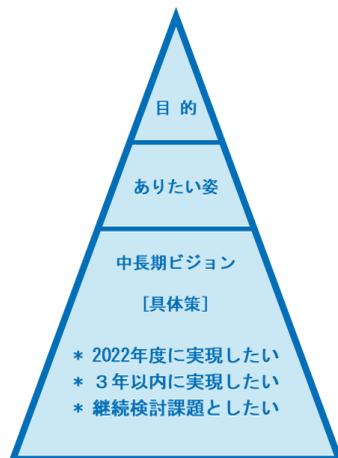
本学会は、いつでもあなたの
上陸（入会）を
お待ちしております！

※巻末の入会案内をご覧ください

この島（学会）はどんなところ？

① 目的

本学会は、キャリア・カウンセリングを「人間尊重を基本理念として、働く人が心身ともに健康で、それぞれの個性と役割が十分に発揮されるよう支援するカウンセリング活動の総称である。学術研究と現場実践に基づき、個人・集団はもとより組織に対して提供され、それらの成長・発達と共生関係の実現、ひいては幸福かつ持続可能な社会の創造に寄与する専門的過程である。」と定義し、キャリア・カウンセリングの研究、調査及び自らの資質向上のための各種事業を行うことを目的とします。（定款：第2条）



② ありたい姿

- キャリア・カウンセリングに関する研究者、実践者等の自由な交流と対話の場を保障する
- キャリア・カウンセリングに関する研究者、実践者等の学習と成長の機会を創造する
- キャリア・カウンセリングに関する研究と実践活動等の成果を社会へ発信する
- これらの活動を通じて幸福かつ持続可能な社会づくりに貢献する

「ありたい姿」の説明

- ・ 私たちは、キャリアをワークやライフも含む広い概念として捉え、キャリア・カウンセリングをキャリア形成支援やメンタルヘルスケアも含むものと捉えています。

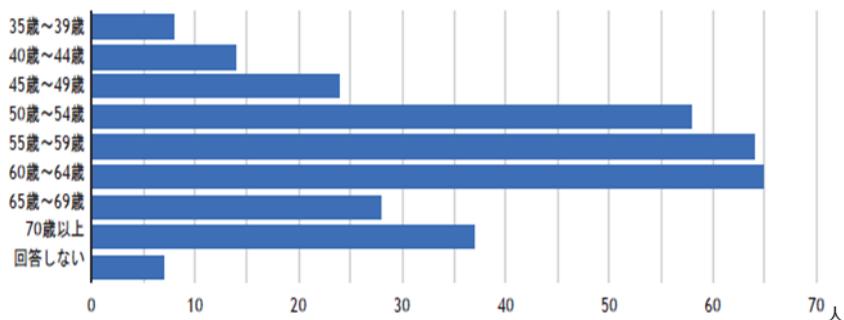
- ・ 支援領域は、産業領域はもちろんのこと、教育領域、福祉領域、医療領域、司法領域等も含まれます。
- ・ 支援対象は、企業人に限らず、アンペイドワーク（家事、育児、介護等）の従事者、ボランティア、学生、シニア等の個人、および、グループ、チーム、コミュニティ等の組織も含まれます。
- ・ 関係団体、地域、国家等の枠を超えて、自由闊達でフラットに交流と対話をするを相互に保障します。
- ・ そして、**科学者実践者モデルに基づき、学術研究と実践活動を通じてキャリア・カウンセリングに関する科学的見識と効果的な技能を学びを深め合い、常に成長し続けることを目指します。**
- ・ また、研究と実践活動の成果やそれにもとづく各種提言を積極的に社会へ発信します。

これらの活動を通じて、幸福かつ持続可能な社会づくりに貢献する団体でありたいと考えます。

島（学会）の住人はどんな人たち？

2021年8月に、本学会の将来構想策定プロジェクトが会員を対象に調査した結果をご紹介します。（回答率 33.1%, n=305）

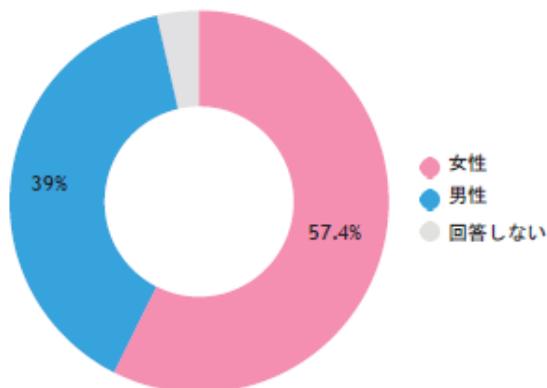
年齢



50代～60代前半が多いですね。ベテランが頑張っていますが、だからこそ、これからの学会を担う若い方は大歓迎です！

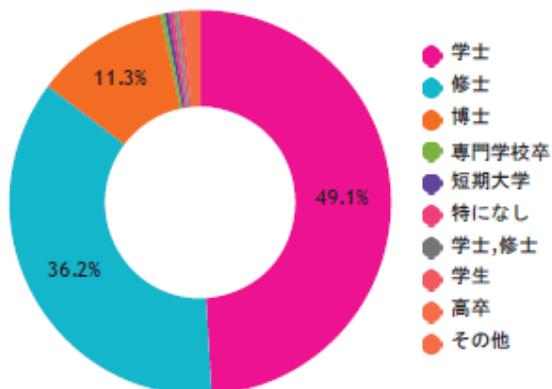
性別

会員では女性が約6割ですが、理事や社員、委員の女性比率はやや少ないかも……。ダイバーシティの時代ですから、学会をリードしてくださる女性会員を増やしていきたいですね。

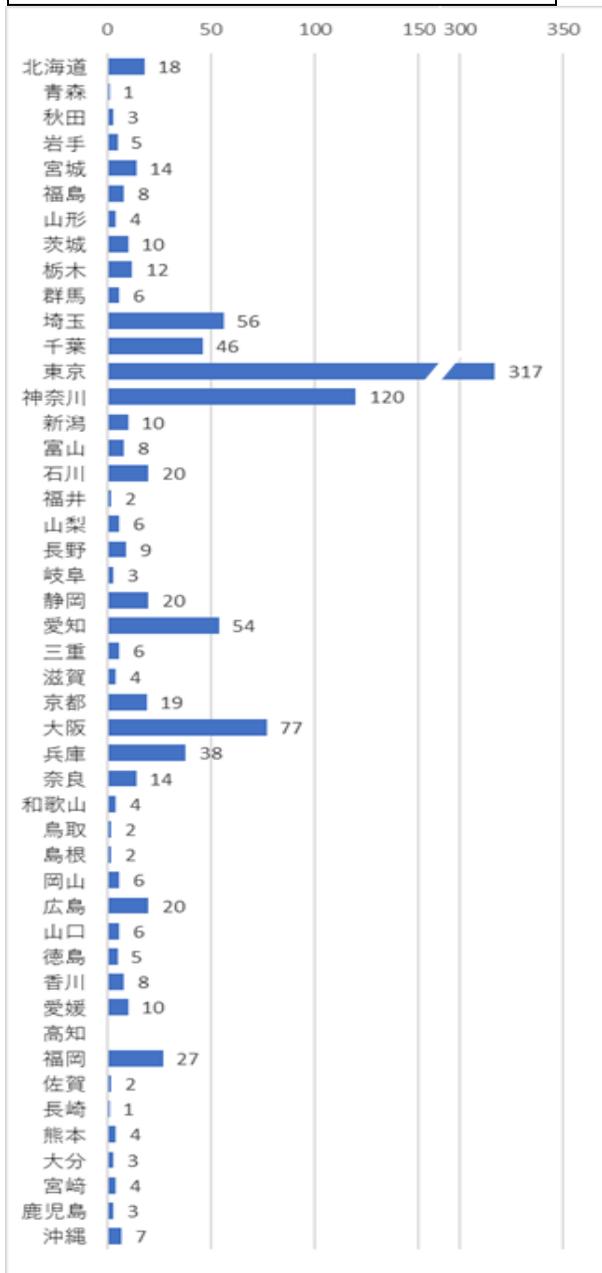


学位

実践者が多い学会の特徴が表れています。実践者と研究者の出会いが新たなイノベーションを生み出すかもしれません。意味あるハプンスタンスを求めて、交流を深め意見交換をしてみませんか。

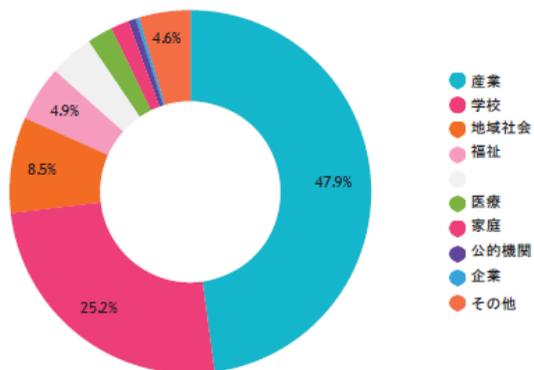


在住地域 n=1024 (このデータのみ 2022年9月時点)

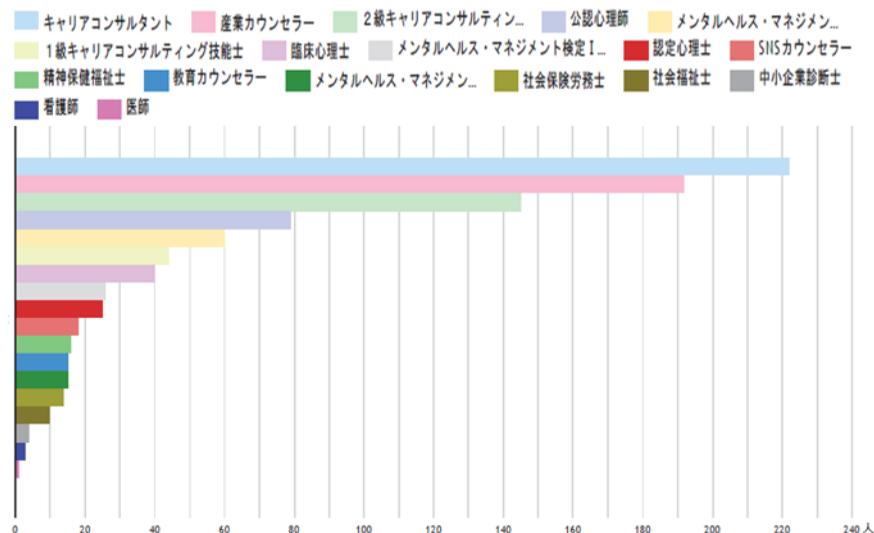


首都圏に集中していますが、皆さんがお住まいの地域には、何人いらっしゃいますか？ その人は、どんな人でしょうか？ 是非、その方とお知り合いになって学会を盛り上げてください。

支援者としての主たる活動領域（就労場所に限らず）



保有資格（複数回答）



さて、皆さんと同じような立場の住人はどのくらいいたでしょうか。学会はハードルが高い印象があるかもしれませんが、しかし、同じテーマや課題を抱えている仲間はきっといると思います。本学会を通じて、刺激的なネットワークを形成してみてください。

第2章

4人の旅人のストーリー

学会という「島」に上陸した
4人の旅人のストーリーを参考に
あなたもこの島をめぐるませんか？



※ なお、この4つのストーリーは、
複数の実話に基づいて紹介用として再構成したフィクションです。
また、本章で使用している人物写真はイメージです。

春田さん（30代女性・企業内カウンセラー）

企業内カウンセラーとして、専門性をより高めたいと思って入会した実践者の春田さん。研究仲間を作り、研究相談サロンの利用、研究発表、そしてスーパービジョン養成講座へと…。

私は30代で人事部に異動したことを機に、カウンセラー資格を取得しました。従業員の職場適応やメンタルヘルスの相談のほか、ご家庭の事情、復職など様々な相談に乗る必要があったからです。従業員の問題解決のためにもっと専門性を高めたいという想いはもちろんのこと、それ以上に、自分自身の社会人としての成長や勉強が全然足りないという焦燥感みたいなものがずっとありました。そんな時に、カウンセラー仲間から紹介されて、この学会に入会しました。でも、「学会って、私が入っても大丈夫なのかな」「大会発表とかどうしたらいいんだろう」そんな不安でいっぱいになりました。



■ 輪の広がりを実感

研究のことが全くわからない私にとって、「学会」はハードルが高かったのかもしれない…。そう思っていたところ、意外にも学会には知り合いのカウンセラー仲間が多かったのです！ 仲間の紹介で、著名なカウンセラーとイベントで仲良くさせていただいたり…。そういう機会を得て、独りぼっちじゃないことを実感しました。

同様の実務上の課題を抱えている人たちとのディスカッションしていくなかで、「カウンセラー仲間」から「研究仲間」へと輪がどんどん広がっていきました。「みんなが頑張っているんだ」、「同じような課題に対して、何か一緒にやっていきたい…」と。

「研究」「発表」「大会」への興味が芽吹きました……！

■ 芽吹いた芽を支えるしくみ

そんな時、学会ホームページで**研究相談サロン**の案内を見つけました。「短大卒で、これまで研究のケの字もしらない私が、相談なんてしてよいのかな」と思いつつ、「気楽に相談できる」の言葉を信じて半ば開き直りで申し込んでみました。

研究相談サロンでは、とても丁寧に、じっくりお話を聴いて下さいました。「研究はやったことがない」という不安を吐露したところ、「みんな、最初はそうです！」と言ってもらえたのが、とても心強く感じました。ただの情報提供や相談という枠にとどまらず、カウンセリングのような温かい時間のお陰で、「私、きっと、できる！」と自己効力感を得ることができました。



■ 研究大会に一步踏み出す

年に一度開催されている**研究大会**に参加してみようかな…、と思いつながらなかなか踏み切れずにいたところ、今や「研究仲間」になったカウンセラー仲間たちから「発表してみない？」とのお誘いが。「実務で課題になっていることは、きっと、他の人たちも同じように悩んでいるはず。何か私にできることはないか？」という想いから、思い切って事例発表をしてみることにしました。

「でも、どうやったら??？」

大会通信の大会スケジュールを見てみると、「**研修会**」「**シンポジウム**」「**研究発表・実践報告**」という言葉が…。学会というアカデミックな場で発表なんて本当にできるの？ という不安がよぎりましたが、それ以上に新しい世界が広がるようなワクワク感が大きかったのです。思えば、カウンセラーの養成講座を受講した時もこんな感じだったか

もしれません。

一人での応募はまだまだハードルが高いと思って、研究仲間たちと作戦会議を重ねていきました。この過程もとても楽しかったです。「こういう視点で分析してみたら？」とちょっとした閃きからディスカッションが活発になったり、メンバーそれぞれの専門性の違いによって新たな方向性が見えてきたりしました。仕事をしながらの研究は時間的にも大変な場面もありました。でも、その大変さをはるかに上回る楽しさがありました。最終的に発表を終えた時には、達成感のあまり「来年はどうする？」と言っていました！

■仲間がいるから、頑張れる！

同業の企業内カウンセラーの方や知人のカウンセラー達と、あちこちから「一緒にやらない？」と声をかけてもらい、気付いたら公募シンポジウムにも参加することになりました。出逢う人、出逢う人がとても親切にどんどん声をかけてくれて、輪が広がるのを実感しました。

■やる気を伸ばしてくれる！



この学会は、

- 面倒見の良い人が多い！
- 重鎮が気軽に声をかけてくれる！
- 誰もバカにしない！
- 輪がどんどん広がる！
- 仲間がどんどん増える！
- 知っている人が意外と多い！

企業内カウンセラーとして、これまで一人で実務上の課題を「どうにかしなきゃ」と思って孤軍奮闘していました。でも今は、この学会があるから、仲間がいるから、逆に「問題意識として、次の大会で発表してみよう！」と思えます。

■さらに一步前へ

専門性をさらに高めるために、後進のカウンセラーを指導できるように「**スーパーバイザー養成講座**」も受講し始めました。この講座には講義編と実習編があり、更にはスーパービジョン実践訓練（スーパービジョンメンターによる継続的指導）へと続きます。まだまだ知らないことが多く、スーパーバイザーになるには長い道のりです。一人の企業人そしてカウンセラーとしても、まだまだ勉強することがあると痛感しています。

■入会を考えている方へ

いろいろな学会があるなかで、日本キャリア・カウンセリング学会は実務者と研究者が互いに尊重しあって、研究に対する興味を、見守るだけでなく、具現化まで引っ張ってくれる、そんなところだと思います。「仲間」が多いことや、ロールモデルになるような人も多いのも特徴の一つです。今度は、私が、誰かの研究を支えられるようになりたいという想いで活動をしています。



ぜひ、あなたも私たちの仲間になりませんか。

一緒にやりましょう！

春田さんのストーリー（終）

秋元さん（30代・男性・博士課程の大学院生→大学講師）

大学院卒業後、実践・研究者の集いをもとめた秋元さん。つてを頼りにして当学会へ。さらなる人とのつながりを広げて、実践・教育・研究を柱とする大学教員へ。

海外でカウンセリングを学び、大学院で研究をしていくうちに、さらに日本でのカウンセリング現場の実践・研究をしたいと思っていました。



「日本の学术界での研究のしきたりや実践で気を付けることは？」

「書物じゃなくて、活きた知恵や情報・人の輪がないと」

「やばい。つんだかな・・・。」

日本の実践者や研究者とのつながりが全くない。いわゆる「見知らぬ土地」でどのように活動していけばよいかわからない。自分の研究計画もすべて見直すどころか、ゼロから作り直さないといけないという焦りもありました。

■学会への誘い

大学院の恩師から日本キャリア・カウンセリング学会の理事の方を紹介していただき、この学会の特徴についても教えていただきました。喧々譁々・ドンパチやりあうという場ではなく、研究を始める、実践者と研究者の結びつきを強調しているという雰囲気は、入会する前より、理事の方の人柄からも感じていました。

とりあえず、人とのつながりは確保できた・・・その先は？

■ 知の祭典：学会の大会

「わあ、知りたい事がたくさん！！」

「どの発表やシンポを聞きに行こう！？」

博士課程の学生だった私にとって、学会の一番の楽しみは何と言っても大会でした。それは、初めてお祭りに参加したような、ワクワク・ドキドキにあふれた時間でした。基本的には、自分からぐいぐい行くタイプではないのですが、そんな自分を忘れるぐらいだったのを覚えています。

大会では、研究発表の他、実践に根差した学びのできる研修会、また、複数の演者と進行・指定討論者からなるシンポジウムなどがありました。このシンポジウムは、今まで経験したことのないものだったので、驚きと共に新しい知識・知見とのふれあい方に出会えました。



■ 「相談できる大会！？」

この学会で非常に面白かったのは、研究について相談できる「研究相談サロン」があったことです。自分の研究を誰かに相談できるというのは、他学会にはない初めてのものでした。実は、学会の大会などでは気を付けて対話を交わさないと、自身の知見や発想を取られてしまうのではないかという不安を抱えていたりもしました。しかし、学会が主催している「相談の場」となれば、話は別です。人の目どころか他者の「耳」を気にせず、日本における自分の研究をどのように進められるか、ということに心置きなく集中できる場でもありました。

居心地のよい場所（育まれる場所）の発見！！

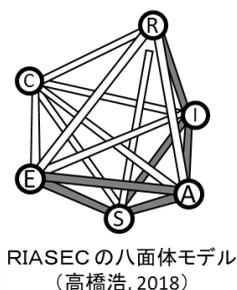
■ 発表者との対話と喜び

うわ！しびれた～。これ、すごい！！

毎年楽しみになってきたこの学会の大会には、博士課程を卒業したのちも定期的に参加していました。そこでは、様々な研究者の人や実践者の人が、今、現代のこの日本で起こっている実態やカウンセリングの可能性について議論しているのを見て触れることができたからです。

そして、あるポスター発表では、ポスターなのに模型を一緒に展示しているブースがありました。統計的な表や数値のみでは捉えづらい概念の構造を、物理的に視覚的に表すその創造性は、知的好奇心を満たしてくれる場でもありましたし、自分

では思いもよらないような知識・知見のプレゼンターとの出会いは、自分にとってとても貴重な時間となりました。



■ 見る側から伝える側へ、いただく側から提供する側へ

この学会では、自分が得るだけでなく、自身の研究活動や実践で培ってきた知見を共有する場にも恵まれていました。研究発表では、帰国後にサポートしてくださった学会の会員さん（実践者）と共同研究をして大会で発表することもできました。実践者目線の意見を取り入れながら、研究として科学的に伝える・共有するという経験を共にできたことは、とても有意義でした。

また、理事の方々ともつながりを持ち、研修委員会や大会主催の研

修会の講師としてお声がけ頂いたり、また、国際交流委員会をはじめ、**各種の委員会活動**にお誘いいただき、温かくも実践と研究を結びつける姿勢の中で要支援者への支援を拡大できる場へと移っていきました。

■研究者としての歩みへ

この学会にかかわり続けて、さらなる転機をいただきました。それは、元事務局長の渡邊祐子先生に、研究者として以前に一人の人間として接していただいたことです。まだ、恩返しをすることができぬ間に急逝されてしまいましたが、私自身のキャリアを案じ、日本での研究活動を本格的に進めるための研究機関へとつながる橋渡しをしてくださいました。

現在、大学機関で、カウンセリングの実践・教育・研究の3本柱を整えることができたのは、私を拾ってくださった現在の大学の方々のもとより、この学会で活動されている方々の指導と励ましがあつてのことです。会員のキャリアの発展も喜び、またお互いに気かけながら、知識の習得や研鑽のできる場所だからこそ、今も研究者としての歩みが続けられていると思います。

諸先生方、本当にありがとうございます！！



秋元さんのストーリー（終）

冬川さん (40代・女性・カウンセラー)

働きながら大学院に進み、研究者としても歩んでいきたいと考えているカウンセラー冬川さん。学会でネットワークを広げて、学術的なバックグラウンドを持った実践者として確立！

ビジネスの現場で起きている現象や課題を理解するには、人の心を理解する必要があると思い、社会人大学院で心理学を学びました。その学びを通し、職場で起きていることを心理学の知見に照らし合わせて考えることが楽しくなりました。働く人々の心理的安全性や居場所感など、職場で課題だと感じていたことを研究し、その結果を、科学的根拠に基づいて世の中に知らせたいという思いが高まりました。



大学院を修了しましたが、研究者と呼べるような経験はありません。仕事の報告書は沢山書いてきましたが、本格的な研究は戸惑うことばかりでした。大学院の修了がゴールではなく、スタートなのだと思いますが、心理・カウンセリングの大きな海原に船を漕ぎ出しました。なんとも心細いスタートでした。

■学会は発表できる場

私は、実務家ですが、研究も続けていきたいと思っているので、学術の世界に身を置いておきたいという思いもありました。まずは、修士論文を学会に投稿しようと準備を始めました。しかし、どの学会に投稿すべきか、どのような学会があるのか、そこに入ることができるのか、よく知らなかったのです。実務家である私にとって、学術の世界はまだよくわからない遠い世界でした。そして、大学から離れてし

まうと、ますます遠い世界になっていました。仕事では豊富なネットワークがあるのに、学術の世界では大学院の限られたネットワークしかありませんでした。

大学院の先輩と話していた時に、日本キャリア・カウンセリング学会のことを知りました。私は、学会を論文投稿の場としか考えていなかったのですが、それ以外にも自分の研究発表や活動報告をできる場（大会発表など）であることを知りました。本格的な研究だけでなく仕事での調査結果をどこかで発表したいと思っていた私にとって、この学会はピッタリであり、うれしく感じました。

■ カウンセリングの現場の意見が聞ける

会員には、カウンセリングの仕事をしている方が多く、大会にも参加していることを知りました。大会は、とても和やかな雰囲気に参加者が意見交換していると聞きました。そこで私は大会で発表すれば、カウンセリングの実践者からの意見を聞くことができる、ディスカッションできると思いました。発表したいけれど、研究者の意見だけでなく、現場の声を聞きたいと思っていた私にこの学会はふさわしい場ではないかと感じました。

学会理事には臨床分野の方が多く、カウンセリングの研修会も開催されています。職場では相談業務も行っていたので、最新で本格的なカウンセリングについても学ぶことができる点も魅力だと感じました。



■学会ライフを満喫する

この学会には、臨床心理士など心理職の方もいて、大学院を離れるとなかなか出会うことができない人たちと出会い、情報交換できることがわかりました。第3の居場所だった大学院ですが、修了後は、物理的にも心理的にも距離ができ、学ぶ場や仲間を失ってしまったように感じていました。学会に入ったことで、院生時代とは異なるけれど、仲間や研鑽の場を得た気持ちです。全くなかった学術領域でのネットワークを少しずつ広げていけると感じています。そして、学術の領域でも自分の居場所を作ることができたらいいなと思っています。

大会での**研究発表**では、カウンセリングの実務者の方々からのコメントがいただけるのを楽しみにしています。また、自分も現場や研究に生かせる知見を得たり、最新のカウンセリングの情報を得たいと思っています。

私はまだ入会したばかりですが、これから、大会で発表したり、**研修会**に参加したりして、学会ライフを満喫したいと思っています。



■実務家であり研究者として

私は、実務家であると同時に、研究者としての経験を積んでいきたいと思っています。大学院での学びを終え、これからどうやって研究者としての経験を積んでいったらいいのか迷っていた私に、この学会は心強い存在です。**学会に登録しているだけでは魅力を生かすことができないので、これから自分なりに活動していきたいと思っています。**

冬川さんのストーリー（終）

夏木さん (50代・男性・企業における実践者)

キャリア教育・キャリア相談の専門性を高めたい企業内の実践者、夏木さん。資格だけじゃないプロとしての研鑽を積んで、キャリア支援の実践者と研究者の2つの顔を持つことに。

大学（経営学部）卒業後、民間企業に入社、人事業務を歩んできました。新設されたキャリア支援部門に異動になり、従業員のキャリア教育とキャリア相談を担当することになりました。キャリア支援やカンセリングについては知識も経験も乏しく、まずは関連資格を取得しましたが、実際にはそれだけでは歯が立たず、もっと専門性を高める必要性を日々感じていました。

「資格は取得したものの自信が持てない」
「もっともっと専門性を身につけたい」
「キャリア支援のプロフェッショナルとしてどう研鑽していけばいいのだろう」



■学会との出会い

これまでは学会というものに全く縁がなかったのですが、カウンセラー仲間から誘われてこの学会の研究大会に参加しました。そこでの研究発表は興味深く、また実践報告では会社での取り組みに参考になることが多く勉強になりました。特に実践者による**研究発表や実践報告**は、新しい視点や取り組みがあって大いに刺激を受けました。

さらに**懇親会**では、仲間から著名な先生方を紹介され、研究大会の感想をお話したところ、学会の会員になることを勧められました。また、社会人大学院への進学も考えたらどうかと助言されました。

研究大会の参加がキャリア支援者としての大きな転機に！

■ 学会への入会

研究大会後、早速入会を申請。入会后、学会誌『キャリア・カウンセリング研究』が送られてきました。さっそく、興味のあるテーマを中心に拝読。論文については難しくよくわからないところがありました。しかし、「これを理解しなければ、有益な知見を実践に活かすことができない、もったいない」と思い、研究を理解する思いがムクムクと高まっていきました。

翌年の大会では、関心のある部会に積極的に参加し、発表者と名刺交換させていただきました。実践報告では、自社でも何か取り入れられないか、参考になることはないかとの思いで発表を聴き、いろいろ質問をさせていただきました。

ちょっと勇気を出して質問をしたことで、他社のキャリア支援担当者やキャリアの研究者とのネットワークが徐々に広がり、また自身の視点が広がっていくことを実感しました。



■ 実践報告が本業に役立つ

このような刺激を受けながら、自社でのキャリア支援にも熱が入り、また工夫もし始めました。その取り組みについて、自分もぜひ大会で発表したいと思うようになり、思い切って発表をエントリーしました。発表資料の作成は大変でしたが、学会でお知り合いになった皆さんからアドバイスやフィードバックをもらいながら準備をして実践報告を果たしました。多くの方から質問や貴重なフィードバック、アドバイスをいただき、支援方法の改善やカウンセリングのレベルアップに大いに役立ちました。

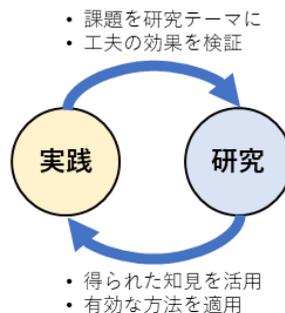
■ 社会人大学院に進学—研究的視点を持ったキャリア支援者へ

学会誌の購読、研究大会への参加を通じて、実践的な研究への関心が高まっていき、懇親会で助言された社会人大学院への進学を真剣に考えるようになりました。専門性を高めるには、単に経験に基づくだけでなく研究的視点を持つ必要がある、そう確信を持つようになったからです。大会で知り合った先生に大学院への進学について相談し、研究計画の立て方や受験についてアドバイスをいただきました。お陰様で無事大学院に合格することができました。

■ 研究発表、学会誌投稿、さらに博士課程への進学

修士課程を修了後、修士研究を研究大会で発表しました。研究発表では、著名な先生方から貴重なコメントやフィードバックをいただくことができました。それらのコメントも踏まえ学会誌に論文を投稿し無事受理されました。研究大会で研究を発表することは、**研究の質を高め、よりよい投稿論文につながることを実感**しました。

当初は、博士課程に進むことまでは考えていませんでしたが、学会で知り合った多くの先生方や研究者との交流をしていく中で、さらに研究を深めていきたいとの想いが強くなり、博士課程に進みました。



実践と研究の相乗効果

学会への入会が、高度な実践的研究者のキャリアになる！

■そして、今…

学会に入会してから、これまで多くの著名な先生方や研究者、キャリア支援の実践者と交流させていただき、いろいろな励ましやご支援をいただけてきました。学会での人的ネットワークはキャリア支援の実践者として、また研究者として私の貴重な資産となっています。また、学会理事の方から研究委員会の委員のお話もいただき、現在は「研究委員会」の活動にも携わることになりました。これからは、私もキャリア支援の実践を目指す学会員、実践的研究者を目指す学会員の方々をぜひ支援していきたいと思っています。



ともに実践と研究のサイクルを回していきましょう



夏木さんのストーリー（終）

第3章

学会のパワースポット

<4つのエリア>

“縁” を結ぶエリア

“技” を磨くエリア

“知” を集めるエリア

“会” を動かすエリア

※本章で使用している人物写真はイメージです。

“縁”を結ぶエリア



大会での懇親会（リアル開催）（主管：大会実行委員会）

研究大会がリアル形式で実施される場合、初日の夕方や夜にかけて懇親会が企画されます。近年は感染症予防対策によりオンライン形式での大会が続き、懇親会企画は見送られていますが、今後の大会で復活することが期待されています。



ところで、研究大会での懇親会、皆さんはどのようなイメージを持ちますか？ 本学会での懇親会は、アルコールを含めた飲み物や美味しさや見栄えにこだわったフードも用意される、素

敵な大人の社交場といった雰囲気です。初めて大会に参加される方にも気軽に来ていただけるよう、親しみやすく楽しい会になるような工夫や配慮が行われています。近い将来に復活できることを祈るばかりです。

■ ネットワーク形成の場

シンポジウムや研修会、研究発表などで登壇された専門家や実践者なども多く参加されますので、多様な人と広く緩やかに交流できるこ

とが最大の魅力です。遠距離の仲間と再会する場にもなりますし、学会の役員や理事などと挨拶をしたり対話をするのも勿論可能です。なお、多くの場合は、出し物も企画され、著名な先生方の思いがけないおちゃめな側面を見ることができるといったお楽しみもあるとかなんとか。

大会での交流会（オンライン形式）（主管：大会実行委員会）

研究大会がオンライン形式で実施される場合、初日の夕方や夜にかけて交流会が企画されます。Zoomでのブレイクアウトルームをリアルな懇親会のテーブルに見立て、参加者同士が自由な形で歓談を楽しんでいただけるよう、工夫されたオンライン空間です。

途中参加、途中退室、お子様やペットなどの乱入も歓迎です。学びを深めていただくことも語らいを楽しんでいただくこともあなた次第。リラックスした楽しい時間になることを願っています。

■ これまで実施されたルームテーマ例

ブレイクアウトルームでは、各種のテーマを用意しています。

- 学会役員や登壇者と交流できるルーム
- 大会テーマに即した分科会的なルーム
- 地域交流ができるルーム
- 当日の感想や雑談が楽しめるルーム
- 新たな繋がりを作るルーム
- 学会内の委員会を紹介するルーム

etc.



Action! 懇親会や交流会に参加するには？ 大会参加が前提となりますので、大会通信や大会特設サイトから申し込んでください。リアル開催の懇親会はオプションとなり別途費用がかかります。

会報・メールニュース（主管：広報委員会）

■ 会報

会報は、会員全員にお伝えする情報誌で、年間3回ほど発行しています。かつては紙媒体でしたが、現在は会員マイページにてオンラインで見ることができます。学会の活動方針や、会長・副会長からのメッセージ、各種委員会の活動報告、イベント報告など、学会の活動状況をお伝えします。

■ メールニュース

メールニュースは本学会の研修会やイベントなどを、月1回ペースで発行しています。会員の方のうち、希望者の方へ登録されたメールアドレスに通知するサービスです（事前に登録をしないと配信されませんので、注意してくださいね）。イベント等は、学会ホームページでも掲載されますが、チェックし忘れてしまいますよね。メールニュースなら、関心のあるイベントを見逃すことはありません。

なお、Facebookでも情報発信をしています。こちらもご覧になってください。

Action! 会報を見るには？ メールニュースの登録は？

会員サービスですので、いずれも、入会後に学会ホームページ「会員マイページ」から可能になります。

<https://jacc.or.jp/member/>

Facebookを見るには？ 以下URLからどうぞ。

<https://www.facebook.com/IndustrialCounseling/>

“技”を磨くエリア



各種セミナー（主管：研修委員会）

キャリア領域やカウンセリング領域、および関連領域に関する実践的なテーマを通じた、学びの場です。会員に限らず、非会員の方もご参加いただけます。近年ではオンライン形式を中心に開催されていますが、全国どこからでも参加しやすく、多様な仲間と交流ができることで、好評です。

多様な専門家や経験豊かな実務家が登壇しますが、理論や知見などの学び直し、新たな情報獲得、様々なアプローチや技法の理解、事例検討による技能向上等各人の自己研鑽や学ぶ意欲を応援しています。

■ これまでのテーマ例(2021年、2022年)

2021年度

- ナラティブ・セラピー
- キャリアコンサルタントのためのスーパービジョン入門
- Excel でできる簡単なデータ分析
- オンラインによる事例検討
- PCAGIP 法による事例検討

2022 年度(予定含む)

- ポストロジャース的カウンセリング
- オンラインによる事例検討
- PCAGIP 法による事例検討
- 人事労務担当者のための精神医学講座
- もう一度カウンセリング(ナラティブ・アプローチの視点から)
- スーパービジョンと事例検討・事例指導はどう異なるのか?
- ナラティブ・セラピー実践ための基本を学ぶ
- メンタル面とキャリア面の統合的視点での職場復帰支援
- ひきこもり支援、etc.



Action! 研修会に参加するには? 学会ホームページTOP ページのイベント欄に表示されますが、やはりメールニュースでの告知が便利です。メールニュースは登録した会員のみ配信されます。見逃したくない方はご登録ください。

大会における各種研修会 (主管: 研修委員会・大会実行委員会)

大会では、キャリア支援の様々な手法、キャリアや支援における理論、研究手法、組織への働きかけなど、多様なテーマで毎回6つ程度の研修会が実施されています。最新のトレンドを知るだけでなく、キャリア支援者、研究者、また働く者として有益な情報収集の場です。

研修会はレクチャーだけでなく、ワークショップ形式で行われるものもあり、多様な領域、地域の参加者との交流の場ともなります。

■ これまでの研修会テーマ (2020年~2022年)

- 関係モデルによる統合的なカウンセリング
- セルフ・キャリアドックにおけるカウンセリング
- 弁護士から見た支援の可能性・キャリアとメンタルヘルスの法律

第3章 学会のパワースポット

講座

- システム面で捉える個と組織:開発の視点から
- もう一度カウンセリング入門
- 職場のメンタルヘルス
- 明日から始める組織開発
- 統合的ライフプランニング (ILP: Integrated Life Planning) の基礎を学ぶ
- ナラティブ・セラピーのダイアログ
- スーパービジョンができるスーパーバイザーになるために
- アドラー心理学による心理支援とカウンセリング
- 質的データ分析: M-GTA (修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ) の3つの要点
- 量的データ分析: EXCEL でできる簡単な統計分析
- ポリティカリー・インフォームド・アプローチ: 倫理・社会正義・政治と心理カウンセリングの統合
- ナラティブ・セラピーに触れる: 関心を持って話を聴くこと、聴いてもらうことへの招待
- 組織に働きかけるナラティブ・アプローチ
- 生活困窮者の包括的支援 ソーシャルワークとの連携



Action! 大会研修会に参加するには? 大会特設サイトでラインナップが公開されます。ここから申し込んでください。
リアル開催とオンライン開催では、大会研修会の支払い方法が異なる場合があるのでご注意ください。

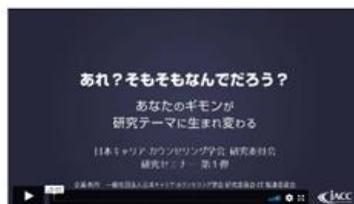
研究セミナー（主管：研究委員会）

研究をしてみたい、でもそもそも何から始めればいいのか？ 研究ってどう進めて何をするの？ の答えがこのスポットに集約されています。2021年より会員マイページにて動画でわかりやすく・丁寧に・充実した内容でセミナーを配信しています。

会員なら無料で視聴できますよ！

■ 研究セミナー動画

- 第1弾[研究テーマ]編
- 第2弾[研究計画]編
- 第3弾[論文作成]編
- 第4弾[データ分析]編（PAC分析）
- 第5弾[データ分析]編（統計分析）



■ 研究の基礎知識が得られます

- 研究を始めるうえでの第一歩から順を追って基礎知識を得ることができます
- 研究テーマの設定から論文作成まで、事例や実際の研究をもとに具体的にわかりやすく動画で理解できます
- 10～15分程度の動画で何度も見て聞いて繰り返し学習できます

この動画をきっかけに、
研究の世界に踏み込んでみませんか？
発見と驚きの世界が待っていますよ！

Action! 研究セミナー動画を見るには？ 本学会ホームページ「会員マイページ」からご覧いただけます。

<https://jacc.or.jp/member/> 会員限定です！

研究相談サロン & サロン Plus (主管：研究委員会)

研究をこれから始める方、進行中の方必見！ 個別に相談をしたいというときに活用いただけるスポットです。

研究を始めたいが進め方がわからない、既に研究を始めているが困っている、大会発表や投稿の準備をしたいなど、研究に関する個別相談が可能です。研究計画・文献研究・調査/分析方法・考察について、論文の作法・論理性・妥当性など内容に応じて本学会員で博士号取得者の相談員とともに検討できる場です。

ご自身の研究を一步進めるためのヒントが得られるかもしれません。セカンドオピニオンとしてご活用ください。

研究相談サロン (無料・非会員可)

- ・大会開催時に実施 (20分～30分)
- ・大会参加者は自由に立ち寄り参加可能

研究相談サロン Plus (有料・非会員可)

- ・年に2回程度実施。会員は割引価格でご利用できます。
- ・1時間の1対1の面談です。事前予約が必要です。



■ 利用者の感想

「ひとりで漠然と悩み不安に感じていたことを先生とお話できる貴重な時間でスッキリしました。」

「自分が考えていることを相談したことで形にできそうです。」

「大学院などでの指導を受ける機会がない自分にとっては個別のご助言・ご指導をいただけるのは本当にありがたいです。素晴らしく、贅沢な企画だと感じています。」

Action! 研究相談を利用するには？ 学会ホームページやメールニュースで開催を通知しています。詳細をご確認の上、お申し込みください。

スーパーバイザー養成講座（主管：SV委員会）

豊かな実践経験を備えスーパーバイザーを目指すカウンセラーが、スーパービジョンの基礎となる知識・スキル、そして考え方を学ぶための講座です。プログラムは平木典子先生を中心とする本学会スーパービジョン委員会が本格的な統合的スーパーバイザー養成を目的として2009年にそのフレームを完成させたものです。

この講座は、「講義編」と「実習編」を修了した後に、スーパービジョンの実践訓練（スーパービジョンメンターによる継続的指導：スーパービジョン・メンタリング）を積み重ねます。その記録と評価に基づいて審査が行われ、資格認定要件を満たすと本学会の認定スーパーバイザーとして登録されます。

■ 養成講座で学ぶこと

多様な専門性と背景をもつカウンセラーに対して、スーパービジョンを提供する上で必要な基礎的な知識をはじめ、スーパーバイザーとしての心構えや倫理を学ぶことができます。

講義編では、精神医学、カウンセリングのパラダイム、キャリア・ガイダンスとキャリア・カウンセリング、カウンセラーの職業アイデンティティと倫理といった、カウンセリングをする際の基礎的な知識を習得し、また、スーパービジョンの概論やスキル、スーパーバイザーの職業アイデンティティと倫理といったスーパーバイザーとして必要不可欠な知識を習得していきます。

実習編に入りますと、実際にスーパービジョンのロールプレイを通じて、スーパービジョンに必要な基礎的なコンピテンシーを獲得していくことができます。

Action! 養成講座を受けるには？ 本学会ホームページ「スーパービジョン」で募集要項を確認の上お申し込みください。

<https://jacc.or.jp/supervision/> SVを受けるには？ ホームページにて認定スーパーバイザーを確認できます。学会で斡旋は行ってませんので、ご自身で連絡をとってご相談してください。

事例検討会（主管：事例検討会普及委員会）

実践者としての技を磨くなら、実践経験を増やしていくのも1つですが、事例検討会に出席する方法もあります。自分が体験できないような事例と出会い、そこででの対応方法をグループで検討していくことができます。PCAGIP²をはじめとして、各種の検討手法を用いて、多様な事例について検討していきます。

■ 多様な視点を持つ実践者になれる

事例を、複数の目で見えて検討することによって、独りよがりな対応になりやすく、専門家としての対応方法・視点も持つことができます。事例提供者には感謝、感謝です。

また、事例検討を回していくファシリテーターとしての技能を習得できるチャンスでもあります。2022年度からは、PCAGIPのファシリテーターに必要なスキルや関わりについて体験的に学ぶ「PCAGIPファシリテータートレーニング」も開始しています。



Action! 事例検討やファシリテータートレーニングに参加するには？ 学会ホームページのイベント欄やメールニュース（登録者のみ）で告知されます。内容を確認の上、ご応募なさってください。

² PCAGIP(ピカジップ)法は、「事例提供者が簡単な事例資料を提供し、ファシリテーターと参加者が安全な雰囲気の中でその相互作用を通じて参加者の力を最大限に引き出し、参加者の知恵と経験から、事例提供者に役立つ新しい取り組みの方向や具体策のヒントを見出していくプロセスをともにするグループ体験」です。

“知”を集めるエリア



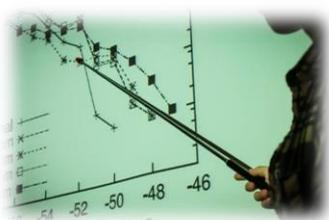
大会での研究発表・実践報告（主管：研究委員会・大会実行委員会）

会員の研究発表と相互交流の場として、年1回開かれる研究大会で、「キャリアならびにカウンセリング」に関する「研究発表」および「実践報告」を発表するスポットです。「実践報告」とは、キャリア・カウンセリング等の実践活動の内容紹介や結果から得られた成果などを自由に報告することができる発表形態です。

■ 発表をする・聴くことで得られること

- その道の専門家や実践者からヒントや意見がもらえる。
- 他の実践者・研究者の方々の活動に寄与することができる。
- 理論と実践の両面から自身の実践や研究を考える機会になる。

- 今のトレンドや最新の手法や考え方に触れることができる。
- 優秀賞・奨励賞の表彰を受ける機会となる。



質疑応答は、する側される側のどちらにとっても、有益な意見交換場で、自分の思い込みに気づいたり、実践や研究を進めるヒントが得られたりします。

理論と実践の両面からキャリア・カウンセリングを考える機会にできます。知的な刺激いっぱいの場です。

Action! 発表をするには？ 会員となって研究発表・実践報告にエントリーする必要があります。詳細は、「大会通信」や大会特設サイトで詳細を確認してエントリーしてください。

発表を聴くには？ 非会員であっても大会に参加することができます。大会特設サイトから申し込んでください。

各種表彰（主管：表彰選考委員会・大会実行委員会）

毎年、大会の研究発表・実践報告をした会員の中から、優れた発表に対して「優秀賞」と「奨励賞」を決定しています。また、優れた研究活動・研究発表をされた会員の中から、「学術賞」という本学会で最も学術レベルの高い賞を選出しています。

その他、キャリア・カウンセリングの発展と社会福祉に貢献した方に贈られる「学会賞」、キャリア・カウンセリングの実践的発展に貢献した方に贈られる「実践賞」、キャリア・カウンセリングの国際的な発展に貢献した方に贈られる「国際貢献賞」、学会の運営及び諸活動に貢献者した方に贈られる「学会功労賞」があります。

■ 受賞の意味

受賞することはとても栄誉なことです。これまでの努力が報われますし、次への活力になります。しかし、それ以上に、キャリア・カウンセリングに関係する人たちにとって意味があるということも忘れてはなりません。「私も同じことを自分の現場でやってみよう」とか「この受賞論文に書かれていることを自分でも確かめてみよう」とか…。確かめてみた結果、現場ではうまくいかなかったということもあるでしょう。だからこそ、その原因を確かめて、どのように克服すべきかという新たな研究課題が生まれます。

そうやって、研究成果が深化し進化していきます。つまり、研究は一人で行っているようで、実は同じ領域の人たちで作りに上げているのです。表彰は、その弾みをつけるものとも言えます。今度は「あなた」が研究して発表する番かもしれません。



Action! 受賞するには？ 必ず受賞する方法はありませんが、まずは自分が疑問に思うことを明らかにしたり、自分が実践した成果を確認したりするような研究を大会で発表してみてもいいでしょうか。

歴代の受賞者を確認するには？ 学会ホームページ「表彰」から各種受賞者の一覧を確認することができます。

<https://jacc.or.jp/awards/>

大会での公募シンポジウム（主管：大会実行委員会）

会員の皆さんからシンポジウムの企画を公募するスポットです。類似のものに大会シンポジウムがあります。これは、大会実行委員会が企画するものですが、これとは別に、会員からシンポジウム企画を募り、大会実行委員が選定のうえで実施を依頼するものです。

■ 興味・関心のあるテーマについてディスカッション

- 会員（企画者）が興味・関心のあるテーマについて、大会参加者の意見やディスカッションをすることができる（知の集結）。
- 企画段階で、様々な領域の研究者や実践者を巻き込むことによって、自身の研究の幅が広がる。
- より新しく、より身近な現場での問題や、領域横断的なテーマなど、対話の場を「自ら」作り、「自由に」発信することができる。



Action!

シンポジウムを実施するには？ 会員となって公募シンポジウムにエントリーする必要があります。詳細は、「大会通信」や大会特設サイトで詳細を確認してエントリーしてください。

シンポジウムを聴くには？ 非会員であっても大会に参加することができます。大会特設サイトから申し込んでください。

大会論文集（主管：大会実行委員会）

大会に参加申込された方は大会論文集が入手できます。大会特設サイトから PDF 版の大会論文集をダウンロードもできます（印刷版を入手することもできます）。

大会論文集には大会プログラムのタイムスケジュール、研修会の概要と講師、大会企画シンポジウムの企画趣旨とシンポジスト、研究発表・実践報告の一覧、公募シンポジウムの概要とシンポジストなどが掲載されています。特に、大会で発表された全ての研究論文（抄録）と実践報告（抜粋）が収録されているところが魅力です。

■ 他者の発表・報告が刺激になる



研究発表・実践報告は、同時並行で開催されますので、まず研究発表・実践報告の一覧表から参加するセッションを決めましょう。参加されるセッションの研究論文・実践報告を事前に目を通して参加されると当日の理解が深まりますし、また、質問したいことを検討しておくことができます。発表内容が自分の研究や実践のヒントになるかもしれません。ためらわず質問しましょう。

参加できないセッションの研究発表・実践報告もぜひ読まれることをお勧めします。

Action! 大会論文集を手に入れるには？ 大会に参加した方には無料で差し上げています。毎年開設される「大会特設サイト」からダウンロードできます。印刷版（有料）を入手する方法も掲載されています。

学会誌『キャリア・カウンセリング研究』（主管：編集委員会）

本学会では学会誌『キャリア・カウンセリング研究』を定期発行しています。会員による研究成果がここに集約・蓄積されます。投稿された論文は、すべて2名の「査読者」のチェックと編集委員会での審査を受けます。これらを経て「採択の判定」がなされた論文だけが学会誌に収録されます（書評は除く）。したがって、学会誌は、学会における最高峰の「知」の結集場所と言えます。



■ 審査は厳しい？

本学会の論文には、原著、資料、事例研究、ケース報告、展望、書評の6種類があります。原著とはオリジナリティの高い論文を意味し、論文の中で最も価値の高いものとされています。したがって、審査もそれなりに厳しくなります。査読者の指摘を受けて、「なるほど鋭い指摘だ」というのもあれば、「えー、そんなこと考えてなかった」というものまで多角的にみられます。投稿者は、その指摘に対応するように論文を修正・見直ししていきます。決して楽なことではないのですが、学会誌に収録されたときは、うれしくまた誇らしい気持ちになります。

■ 学術論文は実践のヒントの宝庫

研究者にとっては学会誌掲載が実績となるので重要なのですが、実践者にとってはどうでしょうか。学術論文には、すぐに実践に使えるものもありますが、中には実践のヒントになるものも数多くあります。論文は、経験と勘だけで書かれたものではなく、学術的な手続きを経て、エビデンスに基づいて作られたものです。実践者の経験では得られない考え方や成果が示唆されている場合もあります。これを使

わない手はないですね。

■ 実践者も論文を読めるようになるう

学術論文は難解であると思うかもしれませんが。そういう部分は確かにあります。学術用語、統計学、質的分析などは学ばないと分からないと思います。これらは少しずつ学んでほしいと思います。研究方法（調査・実験などの方法）に関する本、分析方法（質的・量的）に関する本、心理学や関連分野の用語に関する本などをお勧めします。

そして最初のうちは、タイトルとアブストラクト（要旨）を読むところから始めて構いません。興味が湧いたら、問題・目的・結論というように読み広げていくと良いでしょう。

■ 論文を作成するには？

まずは研究方法・分析方法を習得することと、自分が研究したいテーマを定める必要があります。つまり、研究に関する基本的な知識と論文作成の経験が求められます。これは、大学院修士号レベルの知識・能力が求められますので、修士課程を修了することをお勧めします。

なお、一時的な研究に関する支援としては、本学会の研究相談サロン／サロン Plus が利用できます。

Action! 学会誌を読むには？ 会員には製本版が無料で送付されます。また、J-Stage で本文をダウンロードできます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/careercounseling/list/-char/ja>

論文を投稿するには？ 学会ホームページ「学会誌・刊物」の所に「投稿及び執筆要綱」がありますのでご覧ください。

<https://jacc.or.jp/journal/research-journal/>

オンライン論集『日本キャリア・カウンセリング学会 TODAY』（主管：TODAY 編集委員会）

勤労者の健康、福祉、能力開発に貢献することを目的として、産業領域のカウンセラー、キャリアコンサルタント、臨床家、研究者などが立場や分野を超えた会員の相互啓発と社会への提言を目指し、2018年に創刊しました。

■ 会員ならだれもが発信できる論文！

働く人たちの現状などについての情報、取り組み等の原稿を奮ってお寄せください。そのほかにも、価値ある実践活動やカウンセリングに関する情報、査読付き論文集の投稿までは難しいと感じられる論文は、本誌への投稿をご検討ください。原則、自由投稿で査読はありませんので、多くの方の積極的な投稿を歓迎いたします。



Action! TODAY を読むには？ 学会ホームページ「会員マイページ」から読むことができます。

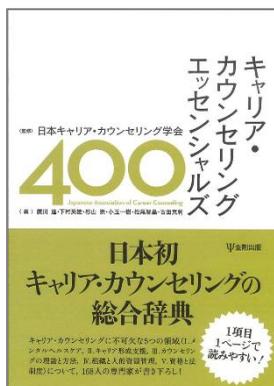
<https://jacc.or.jp/member/>

TODAY に投稿するには？ 学会ホームページ「会員マイページ」にある TODAY の投稿規程、執筆要綱、投稿論文テンプレートをよく確認して投稿してください。

<https://jacc.or.jp/journal/online-journal/>

学会刊行物

キャリア・カウンセリング エッセンシャルズ 400



金剛出版, 2022年3月31日発行

ISBN:978-4772418928

[監修] 日本キャリア・カウンセリング学会

[編集] 廣川進、下村英雄、杉山崇、小玉一樹、松尾智晶、古田克利

キャリア・カウンセリングに不可欠な5つの領域（メンタルヘルスケア/キャリア形成支援/カウンセリングの理論と方法/組織と人的資源管理/資格と法制度）について、168人の専門家が書き下ろした日本初のキャリア・カウンセリングの総合辞典。

★購入はこちら→ <https://www.amazon.co.jp/dp/477241892X/>

産業カウンセリング辞典



金子書房, 2008年11月発行

ISBN:978-4760826223

[監修] 日本産業カウンセリング学会

[編集] 松原達哉、木村周、桐村晋次、平木典子、楡木満生、小澤康司

事項項目 645、人名項目 77 におよぶ豊富な語彙を収録した産業カウンセリングの用語辞典。巻末に和文事項索引、欧文事項索引、和文人名索引、欧文人名索引が付く。

★購入はこちら→ <https://www.amazon.co.jp/dp/476082622X/>

産業カウンセリングハンドブック



金子書房，2000年12月発行，

ISBN:978-4760825882

[監修] 日本産業カウンセリング学会

学会の総力をあげた、延べ160余名の最高の執筆陣の書き下ろし。産業カウンセリングの全域をカバーする初めての本格的ハンドブック。産業カウンセラー、産業カウンセラーをめざす方々に最適のテキスト。臨床現場で役立つ、健康管理室スタッフの実務本位の座右の書。メンタルヘルスに従事する企業関係者に必携・必備の関連情報満載。コラム欄、関連資料編を充実し、現代社会の変化に対応した内容を実現。

★購入はこちら→ <https://www.amazon.co.jp/dp/4760825886/>

今後も時代のニーズに応じて

新たな刊行物を発行していきます！



“会”を動かすエリア



大会実行委員会

年に一度、会員・非会員が一堂に介する場として、研究大会が開催されています。近年は11月など秋に実施されることが多い当大会ですが、大会の時期・期間、大会テーマ、テーマに沿った基調講演・シンポジウムや研修会企画、各賞受賞者への表彰など、大会全般を企画・運営しているのは大会実行委員会です。

大会実行委員会のメンバーは、色々な経緯・動機を持つボランティアな有志で構成されています。大会運営を通して学会を盛り上げたい・貢献したいという点では共通し、志を共にする仲間同士との交流が期間中続きます。

ところで、大会実行委員会はいつ頃発足して、いつ頃まで活動しているのでしょうか？ 2022年度開催を例にとると、前年度秋から緩やかな話し合いや打診が始まり、1月には第1回実行委員会がスタートしました。11月の本番を経たあともオンデマンド公開や事務処理、報告書作成など、多様な対応が当年度末まで続きます。つまり、1回の研究大会を支える実行委員会は、1年半ほどの期間、緩やかに続いているのです。



■ 作り手・発信者としての関わり

実行委員会の仲間同士の交流が深まるだけでなく、会長・理事との交流、登壇者の先生方とのかかわりなど、副産物は豊富です。本務の隙間を縫っての事務作業や調整など面倒なことや大変なことも勿論あり、多忙な時期もありますが、わきあいあいとアイデアをぶつけあい、共感や協働をリアルに実感する貴重な経験です。大会実行委員会へ、みなさんもいつか飛び込んでみてはいかがでしょうか？

Action!

大会に参加するに？ 本学会ホームページ「研究大会」へ。例年、大会特設サイトも作成されています。また、「大会プログラム集」や過去の実行委員会メンバーも確認できます。<https://jacc.or.jp/conference/>

実行委員会のメンバーになるには？ まずは大会や大会の懇親会に参加して、実行委員会のメンバーや理事等と親しくなってみてはいかがでしょうか。

各種の委員会活動

学会の運営や活動の実務的な場として、本部事務局および各委員会が設置されています。以下、列挙します。

- **本部事務局**：会員管理や学会の年間活動全般について管理する
- **総務委員会**：会員サービスの向上に関する施策の検討や定款および諸規定の改訂・新設・廃止の検討を行う
- **ブランディング委員会**：将来構想策定プロジェクトをはじめ、本学会の将来の在りたい姿を検討する
- **広報委員会**：メールニュースやホームページを通じた学会の活動報告や案内を行う
- **IT推進委員会**：リモート化やオンデマンド化に対応する
- **研究委員会**：会員の研究活動への支援、キャリア・カウンセリングに関する研究課題の設定・探求・発表を行う
- **編集委員会**：学会誌の編集・発行、投稿論文の査読・審査を行う。
- **TODAY 編集委員会**：オンライン論集「日本キャリア・カウンセリング学会 TODAY」の編集・発行を担当する
- **表彰選考委員会**：各賞選考会議の設置と運営、大会における表彰運営を行う
- **SV委員会**：SV養成講座やスーパーバイザーの認定を行う
- **事例検討会普及委員会**：事例検討会の企画・実施を行う
- **研修委員会**：カウンセリングや臨床心理学、グループや組織への支援スキルといった様々なテーマを扱った研修を企画運営する
- **国際交流委員会**：国際的な体験・視点に立って知見を深めていく
- **地域活性化委員会**：研修会や事例検討会をはじめ国内各地での活動の機会の創出に取り組む
- **大会実行委員会**：大会の企画・サイト開設・当日運営全般について計画・実行を行う

■ 委員会活動で得られること

学会を動かしていくこともさることながら、会員の方や学識者・専門家からもたらされる知見に触れることができることが大きな魅力です。また、委員同士による幅広い専門性や奥深い交流を持つていくことで、普段の現場では得ることのできない様々なネットワークを構築することができます。



Action! 委員会の活動を知るには？ 本学会ホームページ「会員マイページ」へ。会報で各委員会の活動の報告・紹介を見ることができます。 <https://jacc.or.jp/member/>

委員会に入るには？ 委員長の許可が必要です。まずは、懇親会や研修会に参加して、学会とのつながりや各委員会とのつながりを増やしてみてください。なお、委員会は無償の活動です。

理事会

学会の中核的な役割を果たすのが理事会です。理事会では、理事・幹事や各委員長が集い、活動の報告・共有をはじめ、連携を取りながら、学会の今後の在り方や方向性を検討し、学会のかじ取りをします。ライフやキャリアのカウンセリングを通じて、人々が幸福な人生を送ることができる社会の実現に向けた学会活動を運営していくに当たり、会員の皆様や社会から求められるニーズに向き合い、また、学術を通しての社会貢献を図っていきます。

なお、理事は社員から選出されます。社員は、年に1回行われる社員総会において、学会の運営上の評議員となり、学会の運営とその方向性について確認する役割を担います。

■ 理事会活動の意義

学会の活動に主体的に関わる中で、より大きな枠組みで社会に働きかけていくことができます。また、志を共にする仲間と活動していく中で、実践者としてより専門的かつ奥深い交流を行っていくことで、目の前の実践の場をより俯瞰して捉えることができるようになります。

こうしたかかわりの中から、カウンセリングの社会的な意義や今後のこの国の人々の営みや有り様に心を配り、実践者へのサポートやその先にいるクライアントへの支援の質の充実化を図る知恵を共有する場を得ることができます。

Action! 理事会の活動を知るには？ 本学会のホームページ「会員マイページ」から総会資料や学会の規定などが確認できます。また、会報より、各委員会の活動の報告・紹介を見ることができます。

<https://jacc.or.jp/member/>

おわりに

研究委員会は、会員の研究活動を促進したり、学会として研究活動・研究報告を企画・運営したりする委員会です。私たちの学会は、実践者が多いので、研究活動になじみのない方も多くいらっしゃいます。そのため、一般の学会と違って、研究そのものになじんでもらい研究の意義やおもしろさを理解してもらう活動が重要だと考えています。

ところで、私が本学会に入会するきっかけは、カウンセリングを本格的に学び始めた31歳の時でした。その学びの場に、初代会長の杉谷一言先生が登壇されて、「日本産業カウンセリング学会（現 日本キャリア・カウンセリング学会）を立ち上げるので、興味ある人は会員になってください」とおっしゃいました。企業に所属していた私にとって、ずばりの領域で魅力的な学会だと思い、すぐに申し込みをしたことを覚えています。正会員になったことを誇らしく思いました。

ただ、実を言いますと、私は最初から熱心に学会活動に参加していたわけではありませんでした。大会に参加しても、知らない人ばかりで、研究をしたことがない私には、他の参加者はすべてが偉い先生に見えて、肩身が狭い思いをしました。しばらく大会にもいかない時期がありました。

そんな私と学会との関係に変化が出てきました。それは、実践で生じた疑問を学術的に明らかにしたい、と思いはじめたことがきっかけでした。当時、職業未決定の学生と出会うことが多く、その理由や対応を探求したい思いで学会の大会に参加するようになったのです。大学院にも通い始めました。

結果として、自分の支援活動に、勘や経験だけではなく学術的な基盤を持つことができました。それは自信にもなりましたし、同時に謙虚さと更なる探求の意識も生まれました。自分の支援が対象者のニー

ズに叶うものとするためにも、研究は重要であるという思いが強くなっていきました。

そういうわけで、皆さんにも本学会に入会していただき、是非、高度な対人支援者になっていただきたいと願っています。今後、実践（カウンセリング）と研究の両方に精通した人材を多く育成していきたいという構想もあります。そこで最後に、将来構想策定プロジェクトが調査と議論を尽くして策定した本学会の「中長期ビジョン」を紹介したいと思います（詳細については、是非、学会ホームページをご覧ください）。

中長期ビジョン



I. 国・地域・年代・専門分野を超えた交流プラットフォームの実現



II. より高度な研究者・実務者育成のためのキャリア・カウンセリング研究と実践の進化



III. スーパービジョン、事例検討会を通じた実践力高度化の追求



IV. 時代が求めるキャリア・カウンセリングの研究知見の集積とその発信による社会貢献



V. DX への取り組みと持続可能な組織運営基盤の構築

本学会はさらに発展していきます。皆さんもその実現の一員になりませんか。ともに、自己研鑽と働く人々への貢献のために、力を尽くしていきましょう。



2023年1月 吉日

一般社団法人日本キャリア・カウンセリング学会 研究委員長 高橋浩

入会案内（個人会員）

■ 学会に入会できる方

1. キャリア・カウンセリング分野で研究活動を行っている方、行いたい方
2. キャリア・カウンセリング分野で実践に携わっている方
3. キャリア・カウンセリング分野でカウンセラーの育成に携わっている方
4. キャリア・カウンセリング分野の有資格者（キャリアコンサルタント、産業カウンセラー、臨床心理士など）
5. 産業・組織において、企業の人事・労務、健康管理、人材育成、キャリア形成支援などに従事されている方
6. キャリア・カウンセリング分野の実践者を目指してカウンセリングを学んでいる方

■ 会員の特典

1. 学会誌「キャリア・カウンセリング研究」、会報、研究会のプログラムが無料で配布されます。
2. 研究大会で研究発表を行うことができます。
3. 学会誌に研究論文を投稿することができます。
4. 学会賞・学術賞・特別功労賞・実践賞に応募できます。
5. キャリア・カウンセリングの研究と研修に関する情報が得られ、研究会、ワークショップなどに会員料金で参加することができます。
6. 年次総会に出席できます。
7. 役員選出の選挙権、および被選挙権があります。（会費納付等条件があります）
8. 大会などの参加費に会員特典があります。

■ 会費

入会承認後に入会金と年会費をお支払いいただきます。

- ・個人会員：入会金 4,000 円（初年度のみ）、年会費 9,000 円
- ・学生会員（社会人学生・社会人院生を含む）：入会金無料、年会費 4,000 円

■ 個人会員入会申込フォーム

下記 URL または QR コードから申込フォームにアクセスし、必要事項を記入してお申し込みください。

<https://jacc.or.jp/about/application/>



[編集]

一般社団法人日本キャリア・カウンセリング学会 研究委員会

[著者(50音順)]

高橋 浩 (本学会理事・研究委員長、ユースキャリア研究所代表)
高山 美穂 (研究委員、オリンパス株式会社HRビジネスパートナー所属企業内キャリアカウンセラー)
中村 准子 (研究委員、筑波大学働く人への心理支援開発研究センター研究員)
原 恵子 (本学会監事・研究委員、筑波大学働く人への心理支援開発研究センター准教授)
堀内 泰利 (研究委員、慶應大学SFC研究所上席所員)
三好 真 (研究委員、大妻女子大学人間関係学部人間関係学科講師)
山本 和美 (研究委員、国立大学法人山梨大学キャリアセンター特任教授)

[協力]

本学会代表理事・会長	廣川 進
本部事務局長	土田 博司
理事・副会長	杉山 崇
理事・副会長・ブランディング委員長	馬場 洋介
理事・副会長・編集委員長	古田 克利
理事・IT推進委員長	小倉 浩靖
理事・地域活性化委員長	加賀谷 晴美
理事・国際交流委員長	国重 浩一
理事・TODAY編集委員長・表彰選考委員長	仙波 亮一
理事・総務委員長	野条 美貴
理事・研修委員長	文川 実
理事・SV委員長	三川 俊樹
理事・事例検討会普及委員長	南 陽子
理事・広報委員長	吉川 雅也
監事	坂爪 洋美

(2023年1月時点)

[連絡先]

一般社団法人 日本キャリア・カウンセリング学会

本部事務局

〒162-0822 新宿区下宮比町 2-28 飯田橋ハイタウン 1020

E-mail: info@jacc.or.jp

HP: <https://jacc.or.jp/>

TEL&FAX: 03-5228-4418 (テレワークのため留守電になります)

日本キャリア・カウンセリング学会の歩き方

— プロフェッショナルな学びの島へようこそ！

2023年1月31日 初版発行

編集 一般社団法人日本キャリア・カウンセリング学会 研究委員会

著者 高橋 浩・高山 美穂・中村 准子・原 恵子

堀内 泰利・三好 真・山本 和美

<https://jacc.or.jp>

research@jacc.or.jp

[著者]

高橋 浩

高山 美穂

中村 准子

原 恵子

堀内 泰利

三好 真

山本 和美



日本キャリア・カウンセリング学会
Japanese Association of Career Counseling